



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4003号 2017.11.7 発行

「やさしい日本語」でおもてなし



NHKニュース 2017年11月6日

「高台に避難してください」は「高いところに逃げてください」

「余震」は「後から来る地震」

やさしい日本語は、難しい単語を使わないなど、外国人のためにわかりやすく工夫をした日本語です。

阪神・淡路大震災をきっかけに、災害のときにコミュニケーションをとる

ために考え出されましたが、国際化が進む日本で、在日外国人との日常的コミュニケーション、観光客との会話など、さまざまな場面で「やさしい日本語」が注目を集めています。(おはよう日本ディレクター 越智望)

やさしい日本語でまちづくり

滋賀県長浜市は製造業が盛んで、工場で働く人など、3000人を超える外国人が暮らしています。ポルトガル語を話すブラジル人や、スペイン語を話す南米系の人。最近では中国人やベトナム人が増えてきました。

日本で暮らす外国の人たちは、日本語が少しわかるものの、日本語独特の難しさがあるといえます。

「『以上』、『異常』とか、ひらがなは一緒だけど、発音で意味が変わるから難しい」

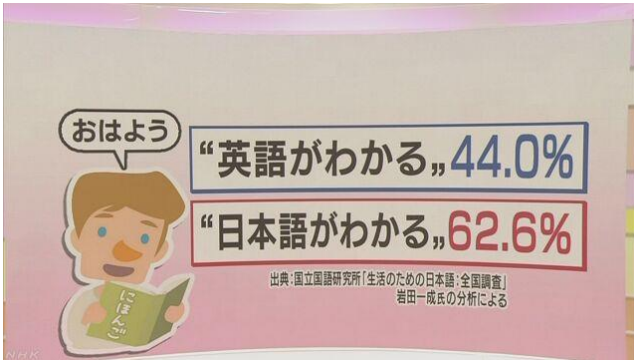


長浜市役所では、外国人の生活をサポートしようと、外国の言葉に翻訳したパンフレットを作成しています。さらに、窓口には専用の通訳も雇っています。

しかし、多国籍化が進む中、すべての言葉に対応することは、お金の面でも、人材の面でも難しいと考えています。そこで注目したのが「やさしい日本語」です。

国立国語研究所が日本に暮らす外国人に行った調査では、「英語がわかる」と答えた人が4割なのに対して、「日本語がわかる」とした人は6割を超えています。

日本語を外国人に通じるよう、上手に使える、コミュニケーションに役立つと考えたのです。



「育休中」をやさしい日本語にして

みると…

先月、市の国際交流協会が

日本人向けにやさしい日本語の

勉強会を開きました。

さんか

参加したのは、仕事で外国人と関わる人やボランティアで日本語を教える人たちです。

最初に与えられた課題は、私たちが何気なく使う単語を言い換えることでした。そのお



題は「育休中」。

参加者の議論を聞いてみると…

「子育てに専念しています」

「子育てで休職中…」

言い換えてはいますが、結局、漢字を

使った熟語が出てきてしまっ

ています。

やさしい日本語には、正解はありませ

んが、例えば、こんな言い方だと、

外国人に伝わりやすいといいます。

「育休中です」=「赤ちゃんがいます。

いま仕事を休んでいます」

ポイントは、漢字の熟語はできるだけ

避けること。さらに、短い文章に分け、

意味をわかりやすくすることです。

やさしい日本語 実際に使ってみると

長浜市では、外国人が集まるイベント

を利用し、「やさしい日本語」を使っ

てもらった方も用意しました。

参加した男性は、日本の秋について話

を始めました。

男性「紅葉という言葉がわかりますか？」

留学生「…」

そこで、男性は言い換えて、会話を続

けます。

男性「日本の山の葉っぱの色。色が変わりますね。赤くなったり、黄色くな

ったり、皆さんはあの色を見てどう思

いますか？」留学生「きれい」



簡単な言葉で丁寧^{ていねい}に説明すると意味が伝わりました。
民族衣装に着替えた外国人留学生を見た日本人が、声をかけました。



「似^に合^あってますね」
どうも意味が通じません。この女性は「似合う」という単語を知らなかったようです。
そこで「かわいいです！」と思い切った言いかえをしてみました。
日本語のレベルは人によって違います。やさしい日本語で大切なのは、それぞれの人に通じる単語を探すことなのです。

やさしい日本語を観光資源に



「やさしい日本語」をセールスポイントにする観光地も出ています。福岡県柳川市です。



2015年に柳川市を訪れた外国人旅行者は、約15万人。そのうち8万人が台湾からの観光客です。
インターネットの調査では、台湾の人の6割以上が日本語を勉強したことがあります。さらに、多くの人が「日本語で話しをしてみたい」と回答しています。日本語ならば町をあげておもてなしできると考え、柳川市は去年から本格的に取り組み始めました。



市の観光協会の高橋努武副会長は、「日本語で話すのならば、幅広い方々がそれに対応、おもてなしできる。大きなメリットだと思います」と話しています。
市はやさしい日本語の講習会を開き、まずは観光業者が「やさしい日本語」を使うことにしました。変えたのは、日本人にとって当たり前の接客フレーズです。

「お召し上がりください」「ご試食いかがですか？」

丁寧な言葉ですが、敬語^{けいご}や、「いかがですか？」といったあいまいな表現は、外国人には伝わりにくいケースが多いのです。

講習を受けた店員さんは「敬語を使わ

なくていいというので、本当におもてなしになるのか…」と不安を隠せない様子。

台湾から来た観光客に名物ののりのつくだ煮をすすめてみました。

「あまい、からい、おいしい」

つくだ煮という言葉は難しいので、簡単な単語で味を説明します。

「食べてください！」

敬語ではなく、ストレートな言い方で、試食をすすめます。

レジでの会話も工夫をしました。袋の大きさを客に聞くときは、実物を見せて問いかけま



す。

店員「お土産の袋は、小さいのと、大きいのと」

観光客「大きいでいいね」

ちょっとした工夫ですが、観光客は日本語での会話を楽しめたようです。

やさしい日本語のポイント

- ・熟語や敬語はできるだけ避ける。
- ・難しい単語は、短い文章を使って説明する。

このほかにも気をつけるべきことが

あります。それは、私たちの話し方。

例えば、会話で、こんな話し方をしませんか？

「きのう渋谷に行って～、友達に会って～、この前見た映画の話をして～」

こうした長い話しことばは、なかなか理解してもらえません。

「きのうは渋谷に行きました。友達に会いました。映画の話をしました」

このように短く切って話すと伝わりやすいそうです。

さらに、「〇〇できないわけではありません」など、私たちがソフトな表現をしようと使う

「^{にじゅうひてい}二重否定^{かいは}も^{ふくざつ}会話を複雑にします。できるだけストレートな表現をすることが大切です。

やさしい気持ちも大事です

取材を通して「やさしい日本語」を学びましたが、大切なのは技術だけではないと感じました。今回取材した長浜市の勉強会で、日本人の参加者たちの姿が印象に残っています。

彼らは、まだ日本語が得意ではない外国人が話す言葉を、なんとか理解しようと熱心に耳を傾け、その表情や身ぶり手ぶりを凝視^{きんし}していました。

自分の言いたいことを分かってもらうため「^{やさ}しい日本語」で話しかけるだけではなく、「^{やさ}しい気持ち」で一生懸命相手の言いたいことを理解しようとしていたのです。

こうしたことは、人と人がコミュニケーションを取るうえで当たり前のことかもしれませ



ん。でも、どちらかが傲慢な気持ちを持ってしまったら、とたんにコミュニケーションは難しくなります。そうした意味でも「やさしい日本語」が教えてくれることは少なくないと感じました。

おはよう日本ディレクター 越智望

NEWS WEB EASYもあります！

「やさしい日本語」は、NHKのニュースサイト「NEWS WEB EASY」で読んだり聞いたりすることができます。

日本に住んでいる外国人のみなさんや、外国に住んで日本語を学んでいるみなさんのために、わかりやすいことばでニュースを伝えるウェブサイトです。

漢字にはぜんぶ、ひらがなで読み方がついています。難しいことばには辞書の説明もついています。そして、できるだけやさしいことばでニュースを書いています。音で聞くこともできます。

日本のことを知ったり、日本語を学んだりするために、NEWS WEB EASYをぜひ読んでみてください。



セクシュアルマイノリティの多様性を理解するために

森山至貴氏インタビュー / α -Synodos vol.231 シノドスジャーナル 2017年11月02日
はじめに

「 α -Synodos vol.231」の特集は、「ひとりひとりが生きやすい社会へ」です。

多数派にとって生きやすいように構成されてきた社会やその常識は、時にマイノリティを排除してきました。一方で、人々の多様性が少しずつ可視化され、これまでマジョリティの陰に隠されてきた人々の声が、徐々にですが社会でも聞こえるようになってきています。全ての人が社会の一員として認められ、生きやすい社会になるためのアプローチを再考します。

巻頭インタビューは、早稲田大学で「クィア・スタディーズ」の教鞭をとる森山至貴氏です。「LGBT」という言葉で一言にまとめがちなセクシュアルマイノリティの多様性、そしてその多様性を見落としてセクシュアルマイノリティの味方だということの危うさについてお話いただきました。

第2稿目の Q&A は、障害児教育におけるインクルーシブ教育の可能性についてです。歴史的に、分離教育が主流だった障害児の教育の中で、今、障害児と健常児を同じスペースで教育する、インクルーシブ教育の可能性が指摘されています。教育経済学がご専門の畠山勝太氏に伺いました。

第3稿、「あの出来事を振り返る」、今回は 2010 年のタイガーマスク運動を振り返ります。日本の寄付元年ともいわれる 2010 年～2011 年の動きを振り返りながら、タイガーマスク運動が児童福祉支援に与えた影響、そして今後の可能性についてタイガーマスク基金の矢嶋桃子氏にご解説いただきます。

最後は、成原慧氏による「学び直しの5冊」です。今回のテーマは「プライバシー」です。巻頭インタビューの一部を下記に転載します。ぜひご覧ください。

森山至貴氏インタビュー セクシュアルマイノリティの多様性を理解するために

LGBT という言葉が広がり、セクシュアルマイノリティへの関心が高まっている。一方で、汎用された「LGBT」という言葉は、多様な性のあり方、そしてそれに付随するトラブルを一緒に扱って、問題の可視性を低めている部分があるのではないだろうか。「違う」ことを忘れずに、その上で共有するものを見つけ、連帯していく。クィアの視点が教えてくれるものとは。早稲田大学でクィア・スタディーズの教鞭をとる、森山至貴氏に伺った。(聞き手・構成/増田穂)

◇人を傷つけながら自分を正当化しないために

——ご著書『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』（ちくま新書）を拝読していて、「良心にもとづく差別」をなくすために書かれたというのが印象的でした。

私も含めてですが、おそらくセクシュアルマイノリティの人たちはいろいろなトラブルを抱えています。そしてトラブルを抱えている人たちは、そのトラブルを解決してくれたり、寄り添ってくれる人を必要していると思うのです。しかし、「味方になるよ」と言う人たちの中には、具体的な問題を知ろうとせず、漠然と近寄ってくる人たちもいます。そういう人たちは実際にはなんの助けにもなってくれません。場合によっては自分が「いい人」であることを主張するために、セクシュアルマイノリティの苦境を利用するようなことになってしまう場合もあります。

これではお互いにとってよいことがありませんから、まずちゃんとトラブルをわかってもらわなければなりません。そしてトラブルを理解してもらうためには、コミュニケーションの中で、現に何が起きているのかを共有することがまずは何より大切です。だからこそ、知識というものをもっと重視する必要があるのです。セクシュアルマイノリティに関

する知識を共有することで、一見すると「いい行い」の中に隠れた差別をもなくすることができると考えてこの本を書いた、という点がありますね。

もちろん、知識のないまま味方になろうとする人たちがみな「悪い人」というわけではありません。しかし、良心的であったとしても、当事者たちが何に困っているのかわかっていなければ、その良心は的を外したものになってしまいます。セクシュアルマイノリティの人たちが具体的に何に困っているのかという、その知識や事実の水準にアプローチの中心を持っていきたいと思っていました。

——ご著書の中では、ゲイならゲイ、レズビアンならレズビアンで、それぞれ自分たちの権利を主張しましたが、その一方で自分たち以外の性のあり方を生きるセクシュアルマイノリティを見下すような感じになってしまった部分なども指摘されていました。「いいこと」だと思って何かをする反面で、誰かを傷つける、という点では、「良心にもとづく差別」に共通する部分がある気がします。

クィア・スタディーズが必要とされた理由の一つがそこにあります。セクシュアルマイノリティはみんな困っているのだから、みんなと一緒に改善を求めていけばいいんだ、と言うのは簡単です。しかし、歴史的にみて実際の運動の中では、誰かから足を踏まれて困っている人が、もう一つの足で別の誰かの足を踏んでいる、ということがよくありました。男性同性愛者が女性差別をすることもありますが、同性愛者の人がトランスジェンダーの人を「男か女かわからない格好をしている人は気持ち悪い」と発言したりすることもありました。逆にトランスジェンダーの人が、自分たちは正しい身体を獲得できれば普通の男性女性として生きられるけれど、同性愛者の人たちは同性同士でくっついて気持ち悪い、などと言うこともあったのです。

こうした発言は、自分たちの性のあり方をはっきりさせ、正当化するための主張として必要だった側面があるかもしれませんが、やはり誰かの足を踏みながら、自分の主張をするのは褒められたことではありません。ですからその点に関しては、ちゃんと知識を整理して、お互いに傷つけないようなやり方で、それぞれの問題を一緒に考えられないかということになっていきました。それがクィア・スタディーズが必要とされた大きな理由の一つだと思っています。

——ひとつ大きなくくりで見ると、その中から差異や類似性を見つけ出していく、ということですか。

くくるというより、違うまま一緒に考えていく、という感じですね。セクシュアルマイノリティは「困っている」ということは同じだけれども、困り方が違います。ですから、クィア・スタディーズでは最初から類似性を強調することはあまりしません。置かれた立場がそれぞれ違うので、トラブルの質も程度も全く異なるからです。

クィア・スタディーズは、それぞれの人が持っている違いを消してしまうことに強い危機感を持ちます。ですから、ちゃんとお互いに何に困っているのか、違いを知った上で、「ここは同じかもしれないね」とすり合わせていくのです。クィアと冠された具体的な研究や運動はいずれもそうして成り立っています。「違う」ということを忘れずに、その中で誰と何を共有できるのか考えていく。それがクィアの考え方と言えるかもしれません。

◇セクシュアルマイノリティの多様性

——差異に注目するという点に関しては、「LGBT」とくくることが自体がセクシュアルマイノリティをひとくくりにし、違いを認識しにくくしている気がします。

全くその通りです。LGBTという言葉が一過性の流行語のように使われてしまっています。実際、LGBTという言葉を使う人が、LとGとBとTについて説明できるかという、説明できない人の方が圧倒的に多いのではないのでしょうか。

「LGBT」も、もともとはクィア・スタディーズが目指すように、セクシュアルマイノリティが連帯しながら、協力できることは協力していこうとする意図をふまえた言葉だったはずですが、しかし今となっては、そうした思想や来歴は無視されて、はやりの言葉として使われてしまっています。同性愛とかトランスジェンダーという言葉をなんとなく使いたく

なくて、「LGBT」という言葉を使う人もいるかもしれません。だとしたら、それは「LGBT」という言葉にとっても不幸なことだと思います。

そもそも「LGBTの問題」というのは、「LGBT」という言葉を正確に使ったとしても、こぼれ落ちてしまうものがあるくらい複雑です。ただでさえ複雑なセクシュアルマイノリティの現状が、トレンドとしてその単語が使われることでより大雑把に理解されるようになってしまっている、という印象はありますね。

——「セクシュアルマイノリティの中での多様性」がクィア・スタディーズの中の重要なキーワードかと思いますが、具体的にセクシュアルマイノリティが抱える問題にはどのような違いがあるのですか。

よく例にあげているのは、トイレの問題です。最近では「LGBT トイレ」といって、セクシュアルマイノリティが使いやすいように別のトイレを設置する動きがあります。しかしトイレでの困り方は、LとGとBとTとそれぞれ違うのです。

最も多く困っているのはトランスジェンダーの人たちです。身体上の特徴、つまり「見た目」ゆえに、自分の性自認のトイレに入ることが難しいのです。周囲の視線が暴力として働いてしまうのですね。

ゲイの人の場合、特に学生時代、男子トイレは他の男の子からからかわれやすい場所です。男性の場合、用を足すとき性器を露出しますので、カミングアウトしている場合などは、自分がゲイだと知っている別の人の隣で用を足すことに不安を覚える、ということもあります。

一方で最初から個室に入ってしまう、トランスジェンダーでないレズビアンやバイセクシュアル女性の方は、もちろん全く問題がないわけではありませんが、比較的トイレには困っていない場合もあるでしょう。

誰がどれくらい困っているのかもわからない状態で、「LGBT」をひとくくりにして「LGBTは『誰でもトイレ』にどうぞ」などと言われると、何に困っているか全然真剣に考える気がないんだな、と感じてしまいます。

もちろん困っている人が「誰でもトイレ」を使えることは重要です。しかしそれならば「困っている人は誰でもどうぞ」と言えばいいはずです。そこをあえて「LGBTの人はあっちでどうぞ」と言われると、「一緒のトイレに入るのが嫌なわけ？」と感じる人も多いでしょう。いろんな問題をちゃんと切り分けて、必要な人に必要なサポートが届くようになって欲しいですね。

◇しくみに則りながらしくみを「ずらす」

——クィアの視座はポスト構造主義から流れているとのことですが、ポスト構造主義とはどのような思想なのでしょうか。

ポスト構造主義を説明するには、構造主義と対比するとわかりやすいと思います。大雑把に言ってしまうと、構造主義というのは、人々の個別の実践の背後にはそれを支える構造がある、という考えです。構造、つまり「しくみ」により、さまざまな行動や関係性が可能になっているというものです。

一方でポスト構造主義は、人々の個別の実践が、構造によって維持されていると同時に、その個別の実践が構造を崩してしまう作用をもつことを指摘します。ここで誤解しないで欲しいのは、構造は人々が実践によりその構造を壊そうとするから壊れるわけではないことです。むしろ、個別の実践が構造の中で、構造のあり方を守っていると、その構造が崩れていくことがある。それがポスト構造主義の考え方です。

クィア・スタディーズでは、この「しくみに沿っていると、しくみが壊れていく」ということが重要です。なぜなら、セクシュアルマイノリティの人たちにとっては既存の社会構造の力はとても強固なもので、そう簡単に意図して壊せるものではないからです。セクシュアルマイノリティに対する現在の社会的構造が納得のいくものではなかったとしても、その構造を変えるための個別の実践をするのはとても難しいのです。

しかし、ポスト構造主義の思想では違います。つまり、社会構造の中でその仕組みに逆ら

わず、場合によっては長いものに巻かれながら行動をしても、構造は崩れるかもしれないのです。この考えはセクシュアルマイノリティの人たちにとっては、ある意味「福音」のようなものでした。

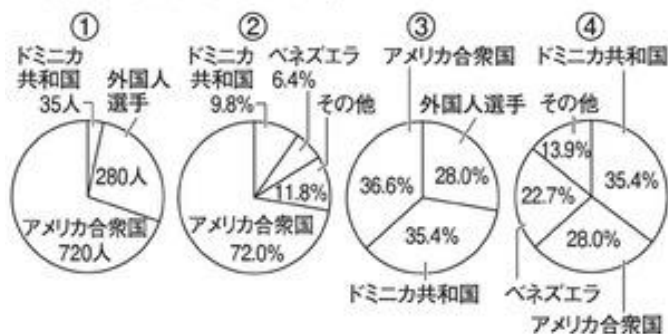
それぞれの置かれた立場から社会構造に反対しつつも、変化のために行動することが難しいセクシュアルマイノリティは、自分のことを無力だと思いがちです。しかしポスト構造主義的な考えは、ルールをはっきりと壊す「力」がなくても、ルールに則りながら、内側からルールをずらしていくことが可能だと教えてくれます。もしそうであるならば、セクシュアルマイノリティにもやれることはあるのではないか。クィア・スタディーズはそうした思想を受け継ぐかたちで生まれてきたのです。

教科書の文章、理解できる？ 中高生の読解力がピンチ 根岸拓朗

「リーディングスキルテスト」の問題例

下記の文を読み、メジャーリーグ選手の出身国の内訳を表す図として適当なものをすべて選びなさい。

メジャーリーグの選手のうち28%はアメリカ合衆国以外の出身の選手であるが、その出身国を見ると、ドミニカ共和国が最も多くおよそ35%である。



正答: ② 正答率 中学生 12% 高校生 28%

出典: 帝国書院「中学生の地理」

朝日新聞 2017年11月7日 「リーディングスキルテスト」の問題例

教科書や新聞記事のレベルの文章を、きちんと理解できない中高生が多くいることが、国立情報学研究所の新井紀子教授らの研究グループの調査で分かった。新井教授は「基礎的な読解力がないまま大人になれば、運転免許や仕事のための資格を取ることも難しくなる」と指摘している。

調査の名称は「リーディングスキルテスト」。教科書や新聞記事などの文章を読んでもらい、意味や構造を理解できているかを調べる内容で、2016年4月から今年7月にかけて、中高生を中心に全国で約2万4千人が受けた。問題は、コンピューターで受験者ごとに無作為に

出題した。

その結果、例えば「メジャーリーグ選手の出身国の内訳」に関する中学校の社会科教科書の文章を読み、内容に合うグラフを正しく選べた中学生は12%で、高校生も28%にとどまった。文章には「選手のうち28%はアメリカ合衆国以外の出身」とあったが、四つのグラフの中から「72%がアメリカ合衆国出身」という事実を示すものを選択できない生徒が多かった。

似た文章を比較する問題でも誤答が多かった。調査では、やはり中学校の社会科の教科書にある「幕府は、1639年、ポルトガル人を追放し、大名には沿岸の警備を命じた」という文と、「1639年、ポルトガル人は追放され、幕府は大名から沿岸の警備を命じられた」が同じ意味かを尋ねた。幕府と大名の関係が入れ替わっているため、正解は「異なる」だが、中学生の42%、高校生の27%が「同じだ」と答えた。

